

## 新型コロナ・ワクチン 世界の接種率は 17.6%

ニッセイ基礎研究所研究理事

伊藤さゆり

新型コロナのワクチンの接種が始まってから半年が経過した。ワクチン接種は、海外領土なども含めると二〇〇を超える国・地域で行われるようになってきている。世界全体の人口一〇〇人あたりの累計接種回数は一七・六回（接種率

一七・六％）に達した（英オックスフォード大の研究者などで行った「アワ・ワールド・イン・データ」の五月十四日時点までに得られたデータの集計、以下同じ）。

接種の進展度合いは国・地域によって大きなばらつきがある。人口一〇〇人あたりの累計接種回数を見ると、イスラエル（二二・五回）、アラブ首長国連邦（UAE、一一・四・九回）など一〇〇回を上回る国がある一方、一回に満たない国も多い。感染者数と接種率の両方が収録されている国・地域の接種率を高い順番に並べた場合の中央値は九・二回で、平均値の一七・六回よりも低い。

変異株の感染爆発で深刻な事態にあるインドは、ワクチンの接種回数では中国、米国に続く第三位だが、人口一〇〇人あたりの累計接種回数は二二・八回で世界全体の中央値は上回るが、平均値は下回る。

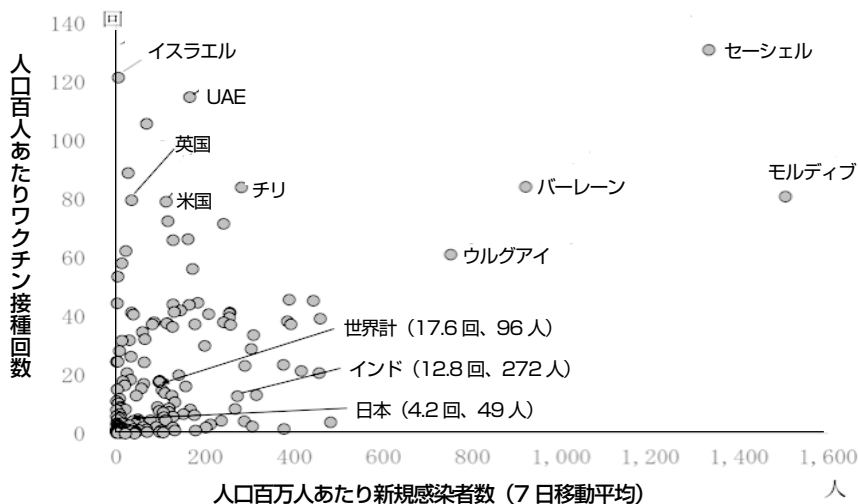
日本は四・二回で、中央値も下回り、「アワ・ワールド・イン・データ」の収録国・地域の接種率では二〇〇位以下となる。人口比で見た新規感染者数は米国よりも少ない。それでも、ワクチン接種で先行した英米が行動制限の緩和に動きだす一方、日本ではワクチン接種のスピードが遅く、感染抑制のため制限を強化する方向にあることに、国民の苛立ちは募ってきているように感じられる。

## 高接種率でも感染拡大が続く国も

イスラエルや英米などでワクチン接種の進展と共に感染者数が減少に転じ、ワクチンに重症化を防ぐ効果も確認されている。ただし、これらの国々の感染者数の減少は、ワクチン頼みではなく、厳しい行動制限の成果でもある。世界各国の接種率と人口一〇〇万人あたりの新規感染者数（七日移動平均）の関係を見ると、接種率が高くても、新規感染者が多い国・地域もあれば、接種率一%未満でも感染を抑え込んでいる国・地域もある（図参照）。一%未満の低接種率で感染者数も少ない国・地域の過半はアフリカ諸国だが、ベトナム（○・九回）、台湾（○・五回）も、このグループに含まれる。

新型コロナウイルスについては今もわからないことは多い。接種が進んでも感染抑制の効果が低い理由としては、ウイルスの変異や、行動の緩み、地理的要因、接種したワクチンの種類などから説明されている。今後の科学的な解明を待つ必要があるだろう。世界が、新型コロナウイルスとの闘いでワクチンというツールを得たことは心強いが、接種率が上がれば問題は一気に解消し、行動制限から解放されるとまで過信するのは禁物だろう。●

図・世界各国の累計ワクチン接種回数と直近の新規感染者数



(注) データ入手可能な最新時点、感染確認数やワクチン接種に関するデータが収録されていない国・地域は除く  
 (資料) Mathieu, E., Ritchie, H., Ortiz-Ospina, E. et al. A global database of COVID-19 vaccinations. Nat Hum Behav (2021) (2021年5月14日アクセス)